

平成14年度「学習状況調査」(小学校5年生)の結果と考察

学習指導改善のために



栃木県総合教育センター

ま え が き

近年、少子高齢化、国際化、高度情報化、科学技術の進展、環境問題の深刻化など、我が国における社会の変化はますます加速しつつあり、社会の各分野においてさまざまな改革が行われています。教育においても、新世紀をたくましく生きる次の世代を育てていくことが重要となり、生涯学習の推進や学校教育の充実のための諸改革が進められています。

平成14年度から完全学校週5日制が実施となりました。また、新学習指導要領が義務教育では完全実施となり、高等学校及び盲・聾・養護学校の高等部においては、平成15年度の第1学年より漸次実施されています。そこで、これらを円滑に実施するために、さまざまな課題の解決が求められています。

また、本県における21世紀初頭の教育の指針を示した「とちぎ教育振興ビジョン」では、生涯学習の観点を見据え、「学ぶ力」と「心」の二つを教育の大きな柱としました。これらをはぐくむために、学校・家庭・地域の連携、幼・保・小・中・高の連携、教職員の資質向上が、より一層強く求められています。

このような状況を踏まえ、本センターでは、本県の児童生徒の学習の実現状況等を把握し、学習指導の改善に資することを目的として、調査研究「学習状況調査」を実施しております。本冊子は、「学習状況調査」の各教科ごとの結果と考察、そして学習指導の改善プラン等をまとめたものです。

皆様それぞれの教育活動の場において、本冊子を積極的かつ有効にご活用くださるようお願い申し上げます。

また、平成14年度の調査研究を進めるにあたり、ご協力いただいた研究協力委員、研究協力校、当該市町村教育委員会及び各教育事務所の方々に深く感謝申し上げます。

平成15年6月

栃木県総合教育センター所長

豊 田 敏 盟

目 次

I 調査研究「学習状況調査」の概要

調査研究「学習状況調査」の概要	1
-----------------------	---

II 学習状況調査の結果と考察・学習指導改善のために

国語科	6
社会科	38
算数科	68
理 科	98

I 調査研究「学習状況調査」の概要

調査研究「学習状況調査」の概要

1 調査研究の経緯

栃木県教育委員会では、本県の児童生徒の学習の理解等の状況を把握し、学習指導の改善に資することを目的として、昭和47年度から「児童生徒に関する行政調査システム」の一環として栃木県学力水準調査事業を実施してきた。

平成7年度からは、それまでの調査事業を発展させ、「学習状況調査」として開始し現在に至っている。

2 調査研究の目的

観点別学習状況評価の観点に基づき、学習指導要領の目標や内容に照らした県内の児童生徒の学習の実現状況をとらえ、今後の学習指導や研修事業の改善に資する。

3 調査研究の方法・内容等

(1) 調査教科

国語科，社会科，算数科，理科の4教科

(2) 調査対象

市町村人口規模別（10万人以上，3万人以上10万人未満，3万人未満）・学校規模別に抽出した47校約1,300人の小学校第5学年の児童

(3) 調査の方法

学習状況調査委員会でペーパーテスト調査問題と意識調査の質問紙を作成し，調査実施校においてペーパーテスト調査と質問紙調査を実施する。なお，ペーパーテスト調査問題は，過去の応答状況を参考に平均正答率をおよそ60%と想定して作成する。

(4) 調査実施日

平成15年1月29日（木），30日（金）

(5) 調査問題の内容

学習指導要領に示されている当該教科の目標や内容に照らし，小学校第5学年までに学習する基礎的・基本的な内容を中心とする。

4 調査研究の特色

(1) 出題の意図

学習の実現状況について過去との比較ができるように、過去の出題と同じ問題あるいは類似した問題を出題する。また、教科の課題を明らかにするために、学習指導要領の目標及び内容を踏まえ、観点別学習状況評価の観点に基づいて出題する。

(2) 意識調査の実施

各教科ごとの意識調査を行うことにより、本県児童の学習に対する関心・意欲・態度を把握し、各教科の学習指導に生かせるようにする。

(3) 指導の改善プランの提示

調査結果を踏まえて、各学校での学習指導に生かせるよう具体的な指導の改善プランを作成・提案し、調査結果からみえた各教科ごとの課題の解決を図るようにする。

(4) 配点例の明示

配点例（100点満点）を示すことにより、各学校が調査問題を活用する際に、各教科ごとの自校の傾向をつかめるようにする。

(5) 教科分冊の配布

各教科の調査結果等をまとめた冊子（合本）とともに、各教科ごとの分冊を各学校に配布することにより、より効果的に各教科の指導に生かせるようにする。

5 調査結果の概要

ペーパーテストの結果では、すべての教科の領域別平均正答率が、想定正答率とした約60%を上回っており、学習状況はおおむね良好であると言える。問題が一部異なるので単純に比較はできないが、平成12年度の結果と比べても、各教科の領域別平均正答率は同程度、あるいはやや高い数値となっている。

また、意識調査の結果から、学習を楽しんでいると感じ、学習していることが生活に役立つと考えている児童が多いことがわかる。学習を楽しんでいると感じたことがあると答えた児童（「よくある」＋「わりとある」）は、4教科の平均でも7割を超え、学習が生活に役立つと思う（「とても思う」＋「わりと思う」）と答えている児童は、各教科とも8割を超えている。反面、興味や関心を持ったことについて進んで調べたり、いろいろな種類の本を読んだりしようとしている児童は6割程度にとどまっている。

＜国語＞

- 領域「書くこと」及び「読むこと」、言語事項の学習状況は、おおむね良好である。
- 説明的文章に比べて、文学的文章の理解が高い。
- 具体的な場面を設定して作文を書く設問での応答状況は良好である。
- 説明的文章において、指示語の指示内容を文脈から読み取り記述することなどについては十分とは言えない。

＜社会＞

- 「わが国の食料生産」と「工業生産」については、おおむね理解されている。
- 調べる内容に応じた資料を選択することはできる。
- 複数の資料から比較・関連させて事象の意味や背景を考えたり、地理的特徴をとらえたりして記述する力は十分とは言えない。
- 根拠を明確にして考え、的確に表現する力は十分とは言えない。

＜算数＞

- 領域「数と計算」及び「数量関係」の正答率が高い。
- 表の見方や考え方、基本的な立式や余りの処理は理解されている。
- 基礎的な計算能力はおおむね身に付いている。
- 既習事項を関連させて論理的に考える力が不十分である。

＜理科＞

- 領域「地球と宇宙」及び「物質とエネルギー」の正答率は高く、学習状況は良好である。
- 「気温のデータのグラフ化」や「メスシリンダーの読み方」など、観察・実験の技能・表現についての正答率が高い。
- 「動物の成長や発生」「星や月の動き」に関する問題、「てんびんの釣り合う条件」を計算によって求める問題での正答率が低い。